

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2770302004		
法人名	特定非営利活動法人緑樹会		
事業所名	グループホーム緑樹		
所在地	大阪府寝屋川市梅が丘2丁目26-1		
自己評価作成日	平成 22年 5月 1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 9月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2770302004&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2770302004&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 7月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 緑に囲まれた環境を活かし、職員1人1人が優しさで温かさの介護を実践するよう努力を続け、地域と共に、家庭的で安堵感のある生活環境創りを進めます。
2. 利用者1人1人の人としての尊厳を守り、プライバシーを尊重して、その人らしく過ごせる支援を続けます。
3. 利用料等、経済的負担の軽減を追求し、利用者と家族との信頼関係に基づいた、安心して安全な緑樹で在り続けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺は住宅地や農園が広がり、落ち着いた景観が楽しめます。玄関では熱帯魚を飼い、観葉植物を置くなど落ち着いた環境づくりをしています。リビングは広くゆったりとして、ソファや畳スペースがあり、いつでも横になれるという安心感があります。おいしく楽しめる食事を提供するために、安全な食材を使い3食ともホームで作っています。自治会に加入し、夏祭りや秋祭などの地域行事への参加や、小学校・幼稚園との交流、地域自治会館で行われる喫茶「ひだまり」への参加、ホーム運営には地域ボランティアの協力を得るなど地域とのつながりを深めています。友人が来られたら歓迎する、年賀状を出す、電話をかけるなど、馴染みの関係を大切に支援しています。「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、医療機関や訪問看護ステーションと提携して、24時間いつでも対応できる医療連携支援体制を整備しています。特定非営利活動法人の特性を活かし、経済的な負担を軽減するための努力をしています。職員の育成に力を入れて、さらにサービス向上を目指しているホームです。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に、明るく生き活きとした、優しさと温かさの寄り添う、安心して暮らせるホーム創り」を理念とし、掲示、全体会議等で職員全員が理解を深め、一人一人が考え、理念に添って行動出来るよう、取り組んでいる。	ホーム理念は「地域と共に、明るく生き活きとした、優しさと温かさの寄り添う、安心して暮らせるホーム創り」として、地域密着型サービスの意義をふまえ、地域との繋がりを重視しています。理念はホーム内に掲示し共有しています。職員は理念を理解して、理念に添った支援に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて自治会の行事に定期的にご招待頂き、毎月2回の町会喫茶への参加や、集会所での展示会には毎回出展させて頂いている。近隣地域からの入居者も有り、職員共々、地域住民に顔を覚えて頂けている。自治会の一員として、月2回の広報誌を届けて下さっている。	地域自治会からホームとして自治会に加入することが認められ、自治会の一員として地域活動に参加しています。夏祭りや秋祭などの地域行事への参加、小学校や幼稚園との交流、地域自治会館で行われる喫茶「ひだまり」への参加、ホームでの習い事に地域ボランティアの協力を得るなど、地域からの支援を受け交流を進めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、自治会の方に介護についての相談受け入れの説明を行っている。近隣にお住まいの高齢者に、季節行事への参加を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議における検討事項を基に、その後の状況や取り組みを報告し、更なる改善に向けて意見交換をしている。今後の方針についても意見を頂き、必要があれば参加委員に協力をお願いする事もある。	運営推進会議では利用者の近況報告、外部評価結果報告、退居者家族からの問題提起と対応を行った経過報告、スプリンクラーの設置工事等についてホームから説明を行い、意見交換をしています。自治会長からは「災害時地域との協力体制」についての協力申し出があり、利用者家族代表からは家族アンケート結果に関しての提案を受けたりしています。会議での提案等は速やかにホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢介護室へ、書類の提出等の機会に可能な限り出向き、担当者に近況報告や相談をすると共に情報収集に努め、連携を深めている。	市の担当者とは話しやすい関係があり、近況報告や情報交換などを行ったり、出向いた時に立ち寄り助言をもらったり、難しい問題がある場合には相談をしたりしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修にて、職員全員が身体拘束の弊害について認識と理解を深めている。家族様には職員と話し合う機会を出来るだけ多く作って頂き、ご理解とご協力を頂きながら身体拘束をしない、安全なケアについて検討を重ねている。現在、身体拘束廃止委員会の設置に向けて準備を進めている。	ホームでは身体拘束を行わない安全なケアを進めるために、職員間で検討を重ね家族の理解を得ています。日中は玄関やベランダ、門扉の鍵はかけていません。エレベーターは自由に乗降できます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報や事例を用いて、施設内研修で検討、意見交換を実施し、日常より職員の意識の徹底を図っている。入居者と職員、職員同士の信頼関係の構築に重点を置く事で見通しの良い施設環境を作り、虐待防止に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度に関する研修等へ参加出来る機会を設け、合同会議やケース会議にて理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には十分な時間を作り、解約の条件も含めた説明をする。ご家族の疑問に一つずつ答えながら不安を取り除き、理解を得られるように努めている。改定の際には、運営推進会議でも意見を頂き、慎重に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が来訪された際には職員が必ず近況報告を実施し、話しやすい雰囲気作りに努めると共に、意見箱も設置している。要望に対してはすぐに検討し、対応について連絡ノートにて職員に周知、実施している。</p>	<p>家族が来られたら職員から声をかけて近況報告を行い、意見や希望を聴取しています。ホーム行事で家族が集まれる際には家族間の交流ができるように支援しています。家族からの要望や意見は職員間で共有しながら、大切に取り扱い、その実現に努めています。</p>	<p>ホームでは利用者の権利擁護として、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員の理解を深める取り組みを予定しています。職員が外部研修に参加できる機会を増やし、必要に応じて利用者や家族、地域住民に制度の説明ができるようにするなど、積極的な展開を予定しています。今後は、取り組みの成果が期待されます。</p>
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に、事業所負担での懇親会を実施する等、日常的に職員とのコミュニケーションを大切にすることを心がけている。「気づきノート」への記入や会議にて意見を聞く機会を設けている。意見は一つ一つ検討し、運営に反映させている。</p>	<p>管理者は職員の意見が出しやすいようにと考えて「気づきノート」を作成しています。「気づきノート」がきっかけとなって職員の意見が活発に出るようになり、利用者支援が効果的に行われるようになっていきます。また、管理者は日常的に職員と話し合えるような機会を持っています。</p>	<p>ホームでは職員一人ひとりの向上心を活かし、施設全体の質を向上させるために、他施設への訪問見学研修等の機会を設け、施設間のネットワーク作りを進めて行く予定です。今後は、職員の積極的な参加が期待されます。</p>
12		<p><b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>日常の職員同士のコミュニケーションを重視し、全員が楽しんで仕事ができるよう「職員の和」を大切にしている。職場環境の問題点、要望等に常に耳を傾けるよう努めると共に、勤務実績・年数を考慮した給与設定や、個々人の家庭環境に配慮した勤務シフトを提供するよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の年間研修計画を基に、大阪府社会福祉協議会研修センターや寝屋川市の研修に積極的に参加している。又、一人ひとりの力量に応じた施設内でのOJT、全体の質の向上を目的とした合同会議での教育研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	寝屋川市の勉強会や施設見学会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係者やご家族より情報を事前に収集し、ご本人からも、よく話を聞く機会を作り、時に見守り、相談もしながら信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安点、問題点を聞き、解決策を見つける為の話し合いを日常的に心がけている。初期段階では、特に連絡を密にし、より良い関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の介護内容、経済的負担等の希望条件を考え、様々な角度からご本人、ご家族にとって善いと思われるサービスを勧めることを前提とし、当ホームがそれに値すると思われる場合には、全力で受け入れ、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを尊重し、生き活きた生活が出来るよう支援し、人生の先輩として接する事で意見やアイデアも頂きながら、支え合う関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏季の納涼会や、秋のバス旅行、お花見等への参加をご家族に呼びかけ、ご本人の希望による電話・外出・帰宅に関して、協力して頂ける関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやりとり、お世話になった方達への挨拶状、年賀状等のやりとりを支援し、知人等への電話での会話も支援しながら、先方が気軽に来訪して頂ける環境作りに努めている。	地域の催しにはできるだけ多くの利用者が参加できるように取り組んでいます。花見、夏秋祭、写真展、書道教室、幼稚園の運動会、選挙、外食、地域にある自治会館での「ひだまり喫茶」など、地域に出て交流を楽しんでいます。また、年賀状を出したり、電話をかけたり、一時帰宅したり、地域の友人が遊びに来られたら歓迎するなど、馴染みの関係を大切にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が共同生活上において、掃除・洗濯・食事などに関して助け合い、協力しやすい環境と雰囲気構築し、利用者同士の関わり合いが円滑になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	従来通りの関係を保ちながら、積極的に継続した支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々声をかけ、注意深くご本人と関わりながら思いの把握に努めている。記録を基に職員間で話し合い、把握が困難な場合はご家族等より情報を得て、理解に努めている。	積極的に希望を出される利用者にはその意見を尊重し、意向を出しにくい利用者には個別に意見を聞き、言葉が出にくい場合には表情やそぶりで思いや意向を確認するなどしています。利用者の意向や好み等は記録に残し、職員間で共有しながら支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居直前の調査により、以前の生活スタイルを出来る限り変化せずに生活できるようにご家族、ご本人から情報を集め、ご本人の意志を尊重した生活が継続できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動や精神状態をチェックして記録に残し、状態が安定しているか、小さな変化も見逃さないよう、常時見守りながら把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的にご本人、ご家族からの意見や要望を積極的に聴く機会を設け、看護師との相談や全体会議、ケース会議にて検討し、介護計画を作成している。	月1回のケース会議では利用者・家族の希望をもとに、職員の提案や工夫点を出し合い計画書を作成しています。介護計画書は職員会議で確認をして、利用者や家族の了承を得ています。介護計画書はモニタリングを行いながら6ヵ月毎に見直しを行っていますが、利用者の状況に変化がある場合にはその都度見直しをしています。介護計画書は訪問看護ステーションとの連携により、看護師の観察点や助言を活かした内容になっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや結果を収集、記録し、連絡ノートにて情報を共有化している。ケース会議にて情報を基に話し合い、実践や介護計画に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、要望に添った柔軟な対応を心がけ、常に新たな可能性を模索しながら、ニーズに合った支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道教室への参加や季節行事へのボランティア協力を、地域より頂いている。消防署職員による消防訓練、小学校行事への参加も含め、地域資源の活用を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医に、ご家族と協力して通院・受診を行っている。必要に応じて職員が付添い、普段の状況を報告するようにしている。	入居以前からかかりつけの医療機関に、継続して診てもらっている利用者が数名おられます。家族が受診に付き添えない場合には、職員が付き添って受診支援をしています。ホームでは2週間に1回、協力医療機関からの訪問診療を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週1回の定期訪問や緊急時の電話相談・訪問が可能な体制となっている。また、協力医療機関の担当医に直接看護師から連絡して頂くことで、より専門的な健康管理を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との協力体制を日頃から築き、入院時には円滑な情報交換や相談を行い、常にご本人の状況を把握できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に基づいた説明を実施し、その後も職員、ご家族を含めて当ホームの現状の把握や、出来ることを話し合い、主治医・看護師と相談を重ねながら、重度化に向けての考えを共有している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、入居時に説明をしています。利用者や家族の希望があれば医療関係者と協力して、最期までホームで暮らせる支援をしています。具体的には訪問看護ステーションと提携して医療連携体制を整えています。看護師の週1回の定期訪問、緊急時の電話相談と駆けつける体制があります。実際には利用者が食事を摂れなくなったら、医師の指示で入院される場合がほとんどであり、最期までホームで看取りをした経験はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にて研修を行い、事故発生時の対応について学べるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「防災マニュアル」を作成し、消防署員による年1回の避難訓練と、定期的な職員、入居者参加の避難訓練を実施している。近隣住民への協力依頼や、運営推進会議を通じて、周辺自治会の協力もお願いしている。	毎年、消防署の立会いのもとに防災避難訓練を行っていますが、昨年は日程の調整がつかず独自の避難訓練を行っています。「防災マニュアル」を作成し、夜間を想定した訓練を行っています。近隣住民への協力依頼や、周辺自治会の協力も依頼していますが、職員だけでも避難誘導できる力を付けるように訓練を重ねています。最近、新たにスプリンクラーの設置を行い、非常災害用の水や食料品もホーム内に保管しています。	今年度は消防署の立会いのもと、防災避難訓練を行う予定にしています。また、職員が夜間を想定した避難訓練を数多く経験することで、緊急時には職員だけでも利用者の避難誘導ができるようにすることを目指しています。今後は周辺地域の協力を受けることと併せて、職員の活躍が期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格尊重を重視した日々の言葉遣いや対応、個人情報の取り扱いについてマニュアルを作成し、意識向上を図る為に施設内研修にて、定期的な指導、教育をしている。	職員の言葉遣いや対応は丁寧で、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしています。また、トイレ誘導や声かけをする場合には周囲に配慮した支援をしています。個人情報の取り扱いではマニュアルを作成し、職員がマニュアルに添った対応ができるように研修を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の理解度、判断力等、現状に即した形で希望を把握し、入浴、食事、レク行事等、常に問いかけの言葉遣いで自己決定を促すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムを主眼においた生活を重視して、押し付けない、強制しない態度と言葉遣いで接しながら、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に応じた服装や行事の際には着物の着付け、町内の理・美容院の利用、施設内でのヘアーカットや簡単なエステ、お化粧品などを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の要望を取り入れた献立を作成し、一週間のメニュー表を掲示し、楽しみにしてもらっている。時には畑で一緒に採った野菜を料理に使用し、準備、片づけ等、可能な限り入居者と共に行っている。	食材は添加物の少ない安全なものを選び、週1回の共同購入と必要時の買物で調達しています。三食とも利用者の希望をもとにホームで献立を作り調理しています。衛生管理には十分な注意を払い、利用者が希望される場合には食事の下ごしらえ、片付け、洗い物などに参加してもらっています。ホームの菜園で育てた野菜を皆で味わい、楽しむこともあります。利用者と共におやつ作りや外食を楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師と協力してカロリー計算や栄養バランスの管理を実施している。体重の変化に注意し、水分摂取量も記録する等、各自の体調や習慣に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の口腔状態、自立度に応じて、食後の声かけや介助、義歯消毒を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人の身体機能に応じて声かけ・誘導をしている。居室設置トイレの便利さを十分に活用し、自尊心に配慮しながらのトイレでの排泄を基本とし、紙パンツ、パット類も必要に応じて検討している。	排泄が自立している利用者もおられますが、多くはリハビリパンツ等を使用されています。職員が声かけやトイレ誘導をし、極力失敗が無いように支援しています。入浴日以外の日にはシャワー浴をしたり清拭をしたりして、清潔が保たれるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、誘導・水分補給・散歩・体操などを促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、ゆっくり浸かりたい、一番に入りたい等、一人ひとりの希望に添って時間を決め、ゆず風呂等で季節感を演出している。	週3回の入浴日を決めて入浴を支援しています。多くの利用者は週3回の入浴をしていますが、入浴を好まれない利用者もおられ、職員がそれとなく状況を見て入浴を勧めています。毎日の入浴を希望される場合には、シャワー浴を勧めています。入浴の順番や時間帯は利用者の希望を確認し、調整しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じた配慮をご家族、主治医とも相談し、気候に敏感に対応しながら、使い慣れた布団を使用する、ラジオを聴きながら就寝して頂く等、安心して休息・睡眠を取って頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果・副作用の把握と管理に努め、特に処方変更時において職員に説明・指示を徹底し、症状の変化について詳細に観察して、記録・報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティア協力による書道や唄の鑑賞、地域行事への参加や、外出・買い物・家事・カラオケ・生花・園芸・手芸など、利用者個々の希望や技術を活かし、意欲的に役割を持って頂くよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭先には自由に出られるスペースを確保し、天候のよい日には近隣への散歩や、買い物に出かけることもあり、地域住民にご協力を頂くこともある。また、順番に外食の日を設ける等、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。	買物や散歩、月2回の町会喫茶「ひだまり」への参加、外食など、毎回積極的に参加されている利用者もおられます。しかし、外出希望が少ない場合や言葉で表せない場合などでは、結果的に外出の頻度が少ない利用者がおられます。	外出希望が少ない利用者にも外出ボランティアの協力を得るなどして、買物や散歩等に誘い、外出してみたいと言う「気持ちを育てる」取り組みをされてはいいかがでしょうか。今後の取り組みが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じて、ご家族とも相談してお金を所持して頂いている。必要に応じて買い物援助や金銭を持つ事への安堵感を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者の想いを傾聴し、希望が有ればいつでも電話・手紙等で連絡を取れるよう支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品や写真を展示し、常に季節行事に合わせた飾り付けを心にかけている。水槽で熱帯魚の飼育をしたり、花を生けたりして、季節感や安らぎを感じられるよう工夫している。	ホーム周辺はのどかで住宅地と農園が広がり、落ち着いた景観が楽しめます。玄関には熱帯魚や金魚が飼われ、観葉植物が置かれるなど自然を取り入れた工夫をしています。リビングにはゆったりとしたソファや畳スペースがあり、いつでも横になれるという安心感があります。共有空間は広く、レクリエーション用の道具やセットなどを置いて、利用者がいつでも使えるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥にイスを配置し、数人でテーブルを囲めるようにしている。日中は玄関・庭先に自由に出て、座って過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前に生活していた様式を踏まえて、使い慣れ、親しんだ家具・調度品などを配置し、従来の生活環境に即した生活が出来るよう配慮している。	居室には、利用者が入居された季節の花をあしらった名札が掛けかけられています。家具類は利用者が持参されたものを使用し、自宅の自室がそのまま移動したような和やかな雰囲気になっています。和室にしたり、洋室だったり、利用者の好みでカーペットを敷いたり使いやすく工夫しています。居室にはトイレが設置され、入口は引戸にして使いやすくしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、滑り止めや、角部へのクッションガードなど、工夫をしている。		